



# 鳥取県金属熱処理協業組合

## — [ 会社概要 ] —

鳥取県下57社による金属熱処理の組織として、県内外の金属加工企業からの依頼品を各種熱処理炉を使用して焼入等の熱処理を実施する。溶接しても割れが発生しない浸炭浸室焼入れ処理などの独自技術をはじめ真空・浸炭・高周波・窒化と熱処理全域をカバーする。試作開発・小ロット処理も得意。ISO取得や人材育成、IT利用など「とりねつマネジメントシステム」で世界水準の熱処理品質を目指す。競争力ある品質・コスト・納期実現へ最適な熱処理技術を提案する。



会社HP：<http://www.torinetsu.jp>



会社名:鳥取県金属熱処理協業組合

業種:製造業

設立:昭和55年04月

従業員数:34名

代表:森 脇孝

場所:鳥取県米子市夜見町3001-3



昭和55年4月に鳥取県下の金属加工業者47社が組合員となり、鳥取県唯一の熱処理工場が誕生しました。(現在の組合員数57社)

金属熱処理は機械金属製品に必要な強度や硬さ、靱性などの機械的性質を付与する極めて重要な工程。自動車、航空機、建設機械機の部品のほか、これらを製造する金型にも適用されます。受注先は800社を超え、現在では県外の受注量が県内を超えるまでにりました。

令和4年の第1回熱処理コンテストでは全国の有名企業を押さえて優勝しました。

技術のみならず働きやすい職場を目指し、一人ひとりが最大限能力を発揮して輝く、女性が活躍できる職場として子育ての出産・育児に対しても支援できる体制を整えています。健康経営では知事表彰や優良法人の認定を受けました。

## 代表インタビュー

とりねつは、真空、浸炭、高周波、窒化と熱処理技術を幅広くカバーしています。こうした整った環境下で複合技術の開発にも力を注いでいます。そして、単品、量産品のどちらにも対応した熱処理を行っており、取引企業数は700社を超えています。

その中に熱処理の新たな動きが垣間見えます。

例えば、鋼板を何万ショットもプレスする金型にはそれに耐える強度が要求され、より硬い鋼板が開発されると、更に耐久性を高める高度な熱処理技術が求められます。自動車産業では燃費や静寂性を向上させるために、部品の小型化、軽量化、強度化、精密化が追求されています。

軽量で高強度の材料が開発されると、その性能を最大限に引き出す熱処理技術が必要とされます。

専務理事

馬田 秀文 さん



### 【独自の取り組みについて】

1年間のスケジュールの中で4週を単に1週間ずつ違う職場で働くという仕組みを取り入れています。各部署で技術を身につけた職員が複数いることで有給休暇が取りやすく、昨年も90%以上が有給休暇を消化しているので働く人にとってもメリットがあります。

### 【社内でのこだわりや大切にしていることはありますか】

熱処理はお客様には見えない重要な工程なので、品質に問題があった場合も正直に報告し合い、再発防止策に取り組んでいます。

肩書きで呼ばない仲の良い社風を大切にしており、専務理事、工場長、課長、係長は使用せず、～さん、～くん、～ちゃんやニックネームを使用しています。





## 社員インタビュー

### Q 社内の雰囲気教えてください //

コロナの影響で集団で集まるようなイベントは最近ないですが、元々年間行事も多くその中で交流があったり仕事の合間の休憩時間でも雑談をし合ったりとアットホームな職場だと思います。

### Q 入社決め手はなんですか //

航空機や自動車など多くの重要部品に熱処理が施されていることを知りその魅力に惹かれ入社を決めました。社内の雰囲気がよく、先輩とも気軽に話せてとても仲の良い会社です。



所属:技術課検査管理係

川上 昭徳さん【入社して16年】



所属:技術課技術営業係

福江 智輝さん【入社して10年】

### Q 社員同士肩書きで呼ばない点について抵抗はありましたか //

初めは肩書で呼んでしまうこともありましたが、上司の方も「名前ですんでくれたらいいよ」というふうに言ってくれたので、次の日には「〇〇さん、おはようございます」など気軽に呼べるようになり、呼び方を変えることで上司部下の壁を超えてなんでも相談ができるようになりました。

### Q やりがいを教えてください //

鉄といってもいろいろな形状がある中でお客様と相談をして一緒にものを作っていくのが好きなので、そのために知識をつけることや経験をする日常の仕事にやりがいをもっています。

## 学生インタビュー

企業に訪問するまで名前を聞いたことはあるが何を行っているかわからない点が多く、HPを見ていく中で様々な取り組みをされていることを知りました。

実際に工場の中を見学させていただき、その広さや機器の多さに驚き、中を歩いたことで安全に関する取り組みや技術の凄さを体感できました。

職員の技術力やコミュニケーションによる現場力とIT化によって工場運営に係る文書や記録はすべてサーバー内で共有しているばかりではなく、会議の議事録もプロジェクターでスクリーンに写しながら記録をするなど様々なデータを活用していることが知れました。



【取材学生】地域学部地域学科 3年、地域学部地域学科 3年



工場内を見学している様子



## 編集後記

熱処理技術を鳥取県内だけでなく全国や世界に提供されていることに感動しました。

学生も初めて工場内を見学し、見たこと触れたことのないものを目の当たりにし、驚いていました。

事前ガイダンスで企業を研究している際は調べるごとに知らない知識や聞き馴染みのない言葉が出てきた様子でしたが、実際に工場見学をし、社員さんとお話することで「そういうことだったのか」という言葉が出ていました。

